

高校公民プリント（過去問類似）

青年期と現代社会 No.6

名前

得点

/10

問1 人間は不完全な存在であり、世界の出来事は必ずしも自分の意のままにはならない。しかし、そうした悪い出来事をも自分と切り離さずに自らの問題として受け止め、より良くあり得た自己を模索し続けようとする主体的態度が存在する。単なる自己否定にとどまらず、世界の中で自己のあり方を決める前向きな試みとして倫理的意義が見出される、この感情や態度を何というか。（2024年 全国公立入試 類似）

1. 昇華 2. 葛藤 3. 後悔 4. 抑圧

問2 青年期の発達過程において、独自の価値観や人生観を模索し、精神的な自立を遂げるために、親や年長者、あるいは既存の社会的権威に対して反発や否定的な態度を示す時期を何というか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 第二反抗期 2. 自我同一性 3. 心理的離乳 4. 自己同一性

問3 自我が欲求不満や葛藤による不安に直面した際、無意識のうちにその不安を和らげ、自己の崩壊を防ごうとする心の適応の働きを総称して何というか。（2005年 全国公立入試 類似）

1. 回避行動 2. 防衛機制 3. 攻撃行動 4. 逃避行動

問4 1980年代のアメリカにおいて、人工授精による代理出産で生まれた子供の親権をめぐり、生みの親である代理母と、遺伝子上の父親である依頼者夫婦との間で争われた裁判で、州最高裁判所が代理出産契約を無効と判断した、生命倫理や家族の定義をめぐる議論に大きな影響を与えた出来事を何というか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. スキアボ事件 2. ベビーM事件 3. クルザン事件 4. クインラン事件

問5 ドイツの哲学者・心理学者が提唱した性格類型において、他者への愛や奉仕、社会的な貢献を最も重要な価値として追求するタイプは、6つのタイプのうち何型と呼ばれるか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 経済型 2. 社会型 3. 理論型 4. 審美型

問6 フランスの思想家が著書『エミール』の中で、「私たちは、いわば二度生まれる。一度は生存するために、二度目は生活するために。一度は人類として、二度目は性をもった存在として」と述べた。この、青年期において心理的に親から離れて自我に目覚め、精神的に新しく生まれ変わる変化を指す概念は何か。（2018年 全国公立入試 類似）

1. 自我の発見 2. 自我の確立 3. 心理的離乳 4. 第二の誕生

問7 青年期において、それまで依存していた親などの保護者から離れ、一人の人間として精神的自立や家族からの独立を志向するようになる心理的プロセスを何というか。アメリカの心理学者ホリングワースが提唱した概念である。（2008年 全国公立入試 類似）

1. 心理的離乳 2. 自我同一性 3. 第二反抗期 4. 自己肯定感

問8 他者の行動を評価する際、その人が置かれた状況や環境に原因があるとは考えず、その人の性格や能力など、自身に原因があるとして帰属させてしまう認知の偏りを何というか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 敵意帰属バイアス 2. 自己奉仕バイアス 3. 基本的帰属の誤り 4. 偽の合意効果

問9 青年期における自己形成のプロセスを分析し、自分が時間や場所を超えて一貫した同一の存在であるという感覚が他者に承認されることで得られる「アイデンティティ（自己同一性）」の概念を提唱した、アメリカの心理学者は誰か。（2024年 全国公立入試 類似）

1. レヴィン 2. オルポート 3. ハヴィガースト 4. エリクソン

問10 ドイツ出身の医師・神学者であるシュヴァイツァーが提唱した、自己の存在を維持しようとする意志と同様に、他者や他の生物も「生きようとするもの」であると考え、あらゆる存在に対して愛と尊敬を抱き、それを尊ぶことを人間の根源的な責任とする倫理思想を何というか。（2026年 全国公立入試 類似）

1. 自然の権利 2. 人間中心主義 3. 責任の原理 4. 生命への畏敬